

R.W.G. Wyckoff 博士の逝去を悼む

秋山雅彦*

Ralph Walter Graystone Wyckoff 博士は1994年11月3日にアリゾナ州ツーソンの自宅で、心筋梗塞で97歳の生涯を閉じられた。長寿を全うされたとはいえ、この悲報に接し、博士のご冥福をお祈りする次第である。

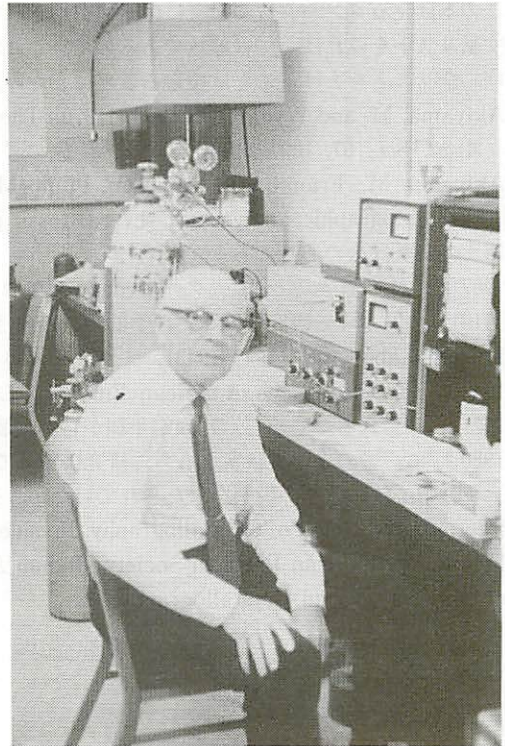
X線結晶学の分野であまりにも有名な博士は、ツーソンにあるアリゾナ大学に移られてからは、化石のタンパク質の研究に力を注がれ、古生化学の分野でも大きな貢献を果たされた。

わたくしたちの化石研究会の創設が1959年で、当時の若手研究者が古生化学と微細構造の分野で必死の勉強に励み、その成果が現れ始めた時期に、X線結晶学と微生物学の基礎にたつてその道の大家であった博士が古生化学という新しい分野に挑戦し、続々と成果を上げておられた。その成果をたずさえて第6回国際電子顕微鏡学会で来日された1966年に、東京で開かれた講演会の席でお会いしたのが最初であった。その折、化石コラーゲンの美しい電子顕微鏡写真を見せていただいた。当時の古生化学の状況は、アメリカにその創始者の P. H. Abelson そして Ralph W. G. Wyckoff, ヨーロッパではベルギーに比較生化学の大学者の M. Florkin という時代であった。

私は、1968年6月から1969年の9月まで白亜系の頁岩中のアミノ酸の研究を行うため、ミゾーリー州セントルイスにあるワシントン大学の地球科学教室に滞在した。そのときには長いOD生活のあと東京教育大学の助手となっていたが、いわゆるポストの自転車操業のため帰国をできるだけ延期しなければならない事情があった。そこで、1969年の夏、アリゾナ大学の Wyckoff 博士のところへ手紙を書き、化石タンパク質の研究が可能かどうかを問い合わせた。幸いにも、半年間なら研究が可能であるとの返事をいただき、1969年の10月の初めに、わずかばかりの家財道具を車に積んで、セントルイスからツーソンまでのルート66のドライブを楽しんだ。結局は、1970年8月末までの11カ月間の滞在となった。

Wyckoff 博士の研究室はアリゾナ大学の物理学教室の一隅をしめ、Franklin D. Davidson と Philip Matter III の2人の研究員、そして技官と秘書の比較的小さな研究室であった。博士には講義の義務はなく、物理学と微生物学の研究教授という立場であつたらしい。X線のカタログづくりの仕事はもっぱら、奥さんがその任に当たっていた。ロッカーに整理された文献ファイルには、Akiyama のファイルもあり、化石研究会誌の別刷も取まっております。感激したことを覚えている。博士の毎日は実験室で分析の仕事がされることが多く、パーキンソン病で手がふるえているのに試験管をもつと、そのふるえがピタリと止まるから不思議なものである。

博士はあまり人付き合いのよい方ではなく、友人は多くなかったようである。東大の名誉教授の野田春彦先生



アリゾナ大学の研究室での Wyckoff 博士
(1970年8月筆者撮影)

*信州大学理学部地質科学教室 Department of Geology, Shinshu University

は、博士がアリゾナ大学に移られる前の NIH 時代からの友人で、渡米した折には必ず博士を訪ねられていたと聞いている。

私が最後に博士とお会いしたのは、1980年にメリーランド大学化学進化研究室の Cyril Ponnampereuma 教授のところで、先カンブリア時代の化石アミノ酸の検出の仕事をしていたときである。ワシントン DC のカーネギー研究所へこられたついでに、立ち寄られたとのことであった。生命の起源の国際学会の会長をつとめ、第一回のオーバーリンメダルを受賞者でもある Ponnampereuma 教授は1994年12月21日に71歳の生涯を閉じられ、私としては相次いで二人の恩人を亡くしてしまった。

博士の古生化学の研究は、*The Biochemistry of Animal Fossils*, Sciencetechnica, 1972にまとめられている。この本は化石タンパク質の論文には必ず引用されている文献である。Wyckoff 博士の古生化学研究の歴史はその文献リストをみれば、一目瞭然であるので、ここでは博士と共著の論文として公表していただいた論文二編をあげ、全リストをあげることは控えることにしたい。

Akiyama, M. and Wyckoff, R.W.G. (1970) The total amino acid content of fossil pecten shells. *Proc. Natl. Acad. Sci.*, 67, 1097-1100.

Akiyama, M., Franklin D. Davidson, Philip Matter III and Ralph W.G. Wyckoff (1971) Liquid and gas chromatographic analyses of several fossil proteins. *Comp. Biochem. Physiol.*, 38B, 93-101.

博士の略歴は次の通りである。

1997年8月9日ニューヨーク州 Geneva で生まれる。コーネル大学で PhD (1919), コーネル大学 (1917-1919), カーネギー研究所地球物理学部門 (1919-1927), Rockefeller Institute Medical Research (1927-1937), Reichel Labs., Inc. (1942-1943), ミシガン大学 (1943-1945), National Institute of Health (NIH) (1946-1952), Science attache American Embassy, London (1952-1954) を経て、定年のないアリゾナ大学 (1957-1977) へ移られる。しかし、70歳定年制がしかれ最初の退職者となる。その後は、Duval Mining Company (1977-1986) に設備のよい実験室をもち、研究に励んでおられた。

現役中には、数々の役割を果たされていたが、その主なものをあげると次の通りである。

International Union of Crystallography, President (1954-1957); Member of American Academy of Science; Fellow of American Physical Society; Indian Academy of Science; Honorary Member of French Society of Mineralogy and Crystallography.